

# SPECIAL F.O.H. "It's absolutely RAW"

-This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene...-

### CONTENTS OF SEPTEMBER 2001

<b>SPECIAL INTERVIEW "F.O.H."</b> page 01	<b>EVENTS SCHEDULE</b> - September to October 2001 page 02	<b>RECOMMENDED EVENTS</b> - Event Information page 03	<b>EVENT REPORT - 01</b> - '01.07.31 Lucky Strike Presents Red Zone Special - '01.08.11 Daddy's House Special - '01.08.12 B-Boy Park After Party page 04	<b>ROCK THE CITY</b> - Night Riders Edited by Yas 5 (U.B.G.) <b>EVENT REPORT - 02</b> - '01.08.19 Kaipan - '01.08.24 Daddy's House Special <b>WHAT'S CRACKIN'?</b> page 05	<b>DISCS FILE</b> - Selected by HomeBass Records <b>SPECIAL TALK SESSION</b> - DJ Cash Money, DJ Rich Medina & DJ Hazime page 06	<b>SYOGYO-MUJO-NO-HIBIKI-ARI</b> - Maki the Magic <b>MINAMIDAI TSU-SHIN</b> - Minamidai <b>THE SIGN OF PROOF</b> - Takeshi Hasegawa <b>MO' INFO PRESENT</b> page 07	<b>LOOKIN' FOR DA "REAL SH#%T !!!"</b> page 08
--	--	---	--	---	--	--	---

## Special Interview F.O.H.

HARLEMオープン当初から数多くのイベントに出演し、HARLEMと共に歩んできたと言っても過言ではない実力派R&BコーラスグループF.O.H.。これまで大物アーティストとのコラボレーションが話題になっている彼等が、満を持して2nd ALBUM『F.O.H. II』とNEW MAXI SINGLE『SEXY WORLD』を9/21に発売する。巷で氾濫している数多くのストリート系アーティストの中でも突出した彼等の存在は今後注目目であろう。9/14DADDY'S HOUSE内にてアルバム発売に先駆けて行われるリリースパーティも要チェック。

**● 結成までのいきさつは？**  
YUTAKA (以下、Y) : 97年に結成したんですけど、出会いはその2年くらい前かな？もともと僕はR&Bの2人組を組んでいて、HIROとARATAは4人組のR&Bグループを組んでいて、当時他にそういう事をやっている人達がいなかったの、ライブとかで会ったりしていた時に気になっていたとか。

**ARATA (以下、A) :** そう、ずっと知っていたんだけど、お互いそのグループがなくなった時に、最初YUTAKAに飲み込まれてそのまま3人で飲みに行って朝までR&B談義をしたんだよね。野郎同士でちきしょーみたいな談義をね(笑)。

**Y :** 最初はお互いの本気度みたいなものを探りあっていて、でもみんな熱くホントにやりたいという気持ちが強かったの、これは完璧な事になって、さっそく次の日からラジカセ持って公園行って練習し始めて。お互い見ている場所とか、こういうことやりたいよねというのが一緒に、ヴォーカルグループとして目指すってべんが一緒だったので、すんなり行ってみようってことになりました。

**● 影響を受けたアーティストと歌を歌うことになったきっかけは？**

**A :** 表現方法はラップとかいろいろあると思うんですけど、その当時は歌にしか全然興味がなくて、単純に歌うのが好きだったってことがきっかけですね。ブラックミュージックに憧れたのはオ蒂斯・レディングという人がいて、友達にビデオを借りて見た時に今までにないくらいショックを受けて、それをみてもすごい感動してそこからですね。コーラスグループのきっかけはテンパレーションズがミュージックフェアに出てたのを偶然みて、格好いいなと思って。グループで歌うことがすこい男っぽかったり、男同士が振り合わせたりそういうところに憧れてそれからです。

**HIRO (以下、H) :** 僕は小さい頃から音楽に接する機会が多くて、小学校1年生の頃からみんなで校庭や体育館で歌を歌うという、歌が盛んな小学校で、無意識的に歌を歌うということが習慣になっていて、僕の家庭は両親が働いていて、いつも一人の時間が多くて、そういう時にテレビでステイビー・ワンダーが歌っていたのがすごく僕の中で印象に残っていて、彼に音楽の楽しさを教えてもらった気がしますね。彼に音楽が聴いて、言葉もわからない僕を感動させてくれたという歌の魅力にすごく感動しました。自分が寂しい時も音楽聴いて立ち直ったり、楽しい時も音楽を聴いてより盛り上がりたり、そういうのが必然的に身に付く環境だったので、気が付けば自分の喜怒哀楽を声に出すというのが自分の中で当たり前にあって、中学や高校でももっとみんなの前で聴かせられたらなーと思うようになって、発表会とかがあると、自分から前に出て行って歌うような子でした。自分の実家の向かい側が教会で、日曜学校とかにいくとその牧師さんが、出稼ぎにきた黒人さんとゴスペルって程でもないんですけど歌うんですよ、それも印象的で、グループで歌うことに引き込まれていて、東京に出てきて自分の好きな事をやっているという状態です。

**Y :** 僕は小さい頃から自然に歌うことは好きで、普通に流れている音楽を聴いて歌っていたという記憶はあるんですけど、基本的に僕は楽器とか好きで、ギターを持って歌う事とか、クラブとかブルースとかが好きだったりして、まだブラックミュージックと直接会う前なんですけど、その頃はギターを持ちながら歌っていたんですけど、東京出てきた時に、前に組んでいた2人組の相方が、すごくブラックミュージックが好きで、ステイビーワンダーとかマーヴィンゲイとか大御所を聴かされて、そこで一気にドシッときましたね。その中でもTAKE6っていうアカペラグループがいて、その映像を見て初めてコーラスグルー

プの魅力にとりつかれたとかみんなが声だけでミュージックを作っていくという...。みんなホントに楽しそうにやるんですよ。呼吸をちゃんと合わせて。ワンツースリーでパーって。鳥肌立っちゃって。そこで完璧に持ってかれちゃって、やりたいってやりたいて。自分達は結構若かったの、日本人が同じことやっちゃうのって難しいじゃないですか、見え方とか。でもいろいろ聴いていくうちに、BOYZ「MEN、JODECIとかを見て、ああこういうスタイルもありか、と。HIP HOPのスタイルを取り入れて、格好なんてラップしちゃう勢いな不良達みたいな奴らが女性に向かって切ない気持ちを歌っていることに感動して、これは格好いいなあと。それでコーラスグループをやりたいなって、ラップに行かなかったのはもともと歌が合ってたんでしょね。ラップも知らなかった訳ではないけど、歌が好きだから歌をやっていた、歌いたかったんでしょね。

**● デビュー当時から今に至るまでの変化を教えてください。**  
Y : 当時はまだ歌う場所が全くなくて、自分達の歌とかスタイルとか自分達のやっていることをみんなに見て欲しくて、イベントがあればどこでも行って歌わせてくれて。「はぁ？歌？」とか言われながら。

**A :** そうそう。「マイク1本しかないけどなんとかして」とか言われて。どういう風にやっていいのかわかんないから店側もわかってなかったらうし、歌を歌ってどうするの？ライブハウスでいいじゃんって感じで。まあ受け入れてくれる所もあったんですけどね。

**H :** 僕らの時はHIP HOPのシーンがすごく確立していたので、ラッパーがやるステージとしてはあったんですけど、シンガーが立つステージとしては少なくて、でもステージがあればマイク1本でも歌いすぎみたいな。

**A :** そう考えると今は歌物のイベントばかりだし、理想的な状況にはなってると思います。

**Y :** もっと欲しいけど。でも前より自分たちが歌いやすい環境というか、だんだん認められてきてはいるという感じがします。

**H :** 最初は日本にはそういうグループがなかったの、自分たちも洋物のR&Bシンガーの歌い方だったりフロウの仕方だったり、物まねみたいな所があったんですけど、日本全国でステージ活動をさせて頂いて、僕らを聴いてくれる方がどんどん増えてきて、やっぱり日本に生まれたからこそ歌えるグループでなくてはいけないという意識や、日本語に対する執着心も湧いてきて、もっと肩の力を抜いて、自分らの追求している音楽を聴かせるようになっていきました。

**A :** 最初はなんでもR&Bのくせにコール&レスポンスするんだ！みたいな人がいたくらいだし。

**● F.O.H.にとってのHARLEMとは？**  
Y : HARLEMはね、すごく親しみのある場所であるし、普通に前から遊びに来ていた場所なので、今でもしょっちゅう遊びに来るし、イベントも楽しいイベントばかりなので、最近忙しくて来れないけど、ここで歌うのは、家的な感覚というか、庭的な感覚というか、リラックスして自分たちを表現出来る場所というか...

**A :** 一番最初はHARLEMでやれるということがすごく誇りだったと思う。

**H :** 日本を代表するHIP HOP/R&Bの本場だから。  
**A :** ここで出来ればストリートの熱帯みたいな感じで。  
**H :** 甲子園みたいな(笑)。地方のアーティストもハーレムを目指すとかそういうのもあると思うし。  
**Y :** いいイベントがあるだけにすごくそれにやるのを目標に、当時はやっていた記憶がありますね。  
**● ハーレムでライブをやるのと他のクラブでやるのとは違いますか？**  
**H :** 違いますね、やっぱり。すごく緊張します、何故か。こけられないというのがある。



**A :** 他にダメとかそういう感じではないんですけど、やっぱり王道的な独特の雰囲気を持っていますよね。ステージ立つときはすごくドキドキしてますね、今でも。

**H :** DJブースがあって、中2階があって、ステージがあるという作り自体が緊張しますね(笑)。ハーレムの作りが俺の中では無意識に緊張します。

**Y :** 外タレとか向こうのアーティストもやるころなので、自分としては特別な感じはありませんね。お世話になっております。酔っぱらいすぎてご迷惑をおかけしたことも多々ありますが... (笑)。

**● 9/21にセカンドアルバム『F.O.H. II』をリリースされますが、ファーストアルバムと比べて気持ちの変化は？**  
Y : 聴く側の層が幅広くなってきたりとか、R&Bシンガーとかデュオが出てきたりしている中で自分たちがF.O.H.としてこの時期に2枚目のアルバムを出すというのはすごく意味のあることで、ここでF.O.H. どのようなものを出してくるんだらうという、どういこうとしてくるんだらうという自分たちの中のプレッシャーも感じてましたし。

**A :** 今R&Bシーンの中で抜けているのって、ストリート性だったり、そういう所が抜けていると思うんですよ。なので、それも生かしつつ、聞き易かったり、日本語も大切に。クラブに来てくれる人達にも聴いてもらえて、なおかつクラブに来たことがない人達にも興味を示してくれるような所を今回のプロデューサーは凄くクリアしていて、ある意味聴き易い乗りやすい。

**H :** 今回のアルバムで僕らがしたかった事というのは、いろいろアーティストが出てきてまさに向こうのR&Bを聴いているのと同じようなって、シンガーもいたり、クオリティ的にも日本人ばかりというR&Bシーンになってると思って。僕らの位置的にはR&Bシーンだけに留まりたくないというか、音楽として幅広いF.O.H.をみたいというとか、そういう意味で7月に出した「さよならは言えなくて」みたいな世俗的なみんなに口ずさんでもらえるような歌謡的アプローチがあったり、もるR&Bの「SANG FOR YOU」だったりがあったり、僕らしか出来ないような挑戦的なスタイルが「SEXY WORLD」だったりするいうなんか幅広い、どんなスタイルでもF.O.H.ならこうやってみせるよみたいなものをセカンドアルバムでは見せたかったという所と、今までライブをやってきて、やっぱり女性のファンが多かったり、もちろん男性ファンもいますけど、女性ファンに助けられてやってこれたかなという所があるので、今回は僕らの女性にまつわるストーリーを詞にして、コンセプトは全て女性に対してという所で今回アルバムを作ったってことと、ファーストアルバムは長期間、1年くらいかけて作ったんですけど、今回は2ヶ月ちょっとくらいの間で作ったので、ホントまとまった、聴き応えのあるいい長さのアルバムという、一番熱い時の自分らがアルバムになってると、僕らの中では今の温かいF.O.H.が出せたセカンドアルバムになったと思います。

**● 今後の予定と、セカンドアルバムリリース後のビジョンは？**

**Y :** セカンドアルバムを出して、だんだん知名度も上がっているし、2枚目でドカンと行く予定なので(笑)。これを引っさげて一人でも多くの人に歌声という魂を届けに行きたいと思っているので、全国ツアーもワンマンでやれたらなあ。

**A :** オレらがやっているクラブ、HARLEMも含めて、そういう所に来たことがない人にも楽しさを伝えたいです。やっぱり若いと来れないし、そういうクラブに行かなかった人達にもこういう感じなんだっていうそのままリアルなステージをやりたい。

**Y :** 作品としては、自分達のこのアルバムを出した後は、フューチャリング物とか、いろいろ人の作品に割り込んで自分達をアピールしようかなと思っていて、「多数オファー受け付けております」みたいな(笑)。そういう募集をしようかな、と。そういうの最近いろいろやっていて楽しいんですよ。もっと違う自分達が見えてきたり、人の作品の中で自由に自分達を表現する事で、すごいおもしろくて。違ったバイブスが一緒になる瞬間っていうのをこれからもっとやっていきたいと思います。

**H :** もっとみんなと接することが出来るショーを全国的にやりたいなと思ってるし、もっと自分らをアピールしていきたいし、気持ちよく歌って、ガンガンライブをしていきたい。セカンドアルバムも出て、現実にやれそうな流れなので、それに集中していいショーを見せる為にいる自分の中でもっとアイデア出して、制作とかも入ってくるけど、いろいろ頭を回転させてがんばりたいと思っています。

**● 9/14(金) 発売前にアルバムのリリースパーティがHARLEMで行われますが...**  
**H :** 僕ら一発目なのですごい気合い入れてやります。

**A :** いろいろ気になる新曲がいっぱい入っていると思うので楽しみにしてもらって、リリース前に他では絶対やらないし、HARLEM初という事なので、これを聴き逃してしまおうと絶対にあらずい。ホントに楽しいライブになると思うので是非遊びに来て下さい。

**Y :** いい感じになると思うので宜しくお願いします！  
**● 最後にHARLEMマンズリーを読んでいる人へメッセージを。**  
Y : セカンドアルバムは、内面的な事とかを包み隠さずいろいろな角度から「今」のF.O.H.を見れると思うので、それをチェックしてもらって、ライブに遊びに来てF.O.H.ワールドにどっぷりつかってもらってチルしてもらえれば本望なんで、ホントでも自分たちでも満足出来る作品なので是非チェックして下さい。

**H :** 今の日本の音楽シーンの中で自分たちのようなスタイルというのは唯一無比の存在だと確信してるので、僕らのセカンドアルバムはホントの意味での音楽だったりR&Bの王道が詰まったアルバムなので、是非聴いて頂いて、必ずワンマンライブには足を運んでガンガン盛り上がるってもりたいなあ。すごくいいショーをするし、すごく楽しい事になると思うので宜しくお願いします。

**A :** やっぱライブですね。HARLEMでやる時も宜しくお願いします。